

授業概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、推論過程等について実験を行い、レポート作成の指導をする。実験の実施、データの記録・整理、データ分析、考察に至るまで心理学実験の理解が深まるよう、毎回、受講生を数名程度の小グループに分けて指導する。また、実験に適した環境（例えば防音/暗室など）で様々な実験を体験し、データを取得し比較する過程で心理学的実験を含む研究デザインの方法が習得できるよう指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー次回までに独立変数と従属変数の意味を確認する (1 時間) ー
第 2 回	講義：心理学における実験とは？ー次回までに実験者効果、実験参加者効果を調べる (1 時間) ー
第 3 回	講義：心理学実験におけるレポート作成の意義ー次回までにレポートの書き方を確認する (1 時間) ー
第 4 回	鏡映描写①実験実習ー次回までに t 検定の意味を調べる (1 時間) ー
第 5 回	鏡映描写②データの分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 6 回	鏡映描写③レポートの作成ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 7 回	短期記憶①暗室での実験実習ー次回までに分散分析の意味を調べる (1 時間) ー
第 8 回	短期記憶②データの分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 9 回	短期記憶③レポートの書き方ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 10 回	短期記憶④レポートの作成ー次回までに尺度水準について調べる (1 時間) ー
第 11 回	推論過程①実験実習ー次回までに U 検定の意味を調べる (1 時間) ー
第 12 回	推論過程②データ分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 13 回	推論過程③レポートの作成ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 14 回	精神性発汗の測定・知覚順応体験ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 15 回	講義：総括ー次回までに指定した論文を読解する (1 時間) ー
第 16 回	最終レポート受領

※進行状況によって実験内容が変更することもある

到達目標

1. 実験レポートの作成を通し、実験結果を科学的事実として報告するための論文の書き方を理解することができる。
2. 実験レポートの文章作成や心理学において必要とされる図表の作成、文献の引用方法と引用文献リストの作成ができる。

履修上の注意

- 本講義の受講にあたっては、「心理学実験基礎」を履修し、単位を取得していることを前提とする。
- 実験ごとにレポートを作成し、提出する。提出期限は実験終了後、目安として 2 週間以内とする（担当教員によって異なる場合もある）。1 種目でもレポートが未提出となると、評価の対象外となり単位が取得できない。
- 遅刻をすると全体の進行状況に悪影響を及ぼすため、原則として遅刻は許されない。遅刻理由によっては、評価の対象外となり単位が取得できない可能性もあるため、注意すること。
- 実験の実施やデータ解析に関する方法、実験レポートに記述すべき内容などは、実験種目によって異なることがあるため、各種目の担当教員からの指示に十分な注意を払うこと。
- 本講義は春期と秋期に分かれる。各学期の人数の調整は指導の関係上、担当教員が均等に振り分ける。

予習・復習

授業時間内での学習および提示された各回の課題に十分に取り組むこと。

評価方法

- 4 種のレポートの評価を総合する (25%×4 種)。

テキスト

- 特にテキストは指定しないが、「心理学実験基礎」で用いた資料等は手元にあることを前提とする。

授業概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、推論過程等について実験を行い、レポート作成の指導をする。実験の実施、データの記録・整理、データ分析、考察に至るまで心理学実験の理解が深まるよう、毎回、受講生を数名程度の小グループに分けて指導する。また、実験に適した環境（例えば防音/暗室など）で様々な実験を体験し、データを取得し比較する過程で、心理学的実験を含む研究デザインの方法が習得できるよう指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー次回までに独立変数と従属変数の意味を確認する (1 時間) ー
第 2 回	講義：心理学における実験とは？ー次回までに実験者効果、実験参加者効果を調べる (1 時間) ー
第 3 回	講義：心理学実験におけるレポート作成の意義ー次回までにレポートの書き方を確認する (1 時間) ー
第 4 回	鏡映描写①実験実習ー次回までに t 検定の意味を調べる (1 時間) ー
第 5 回	鏡映描写②データの分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 6 回	鏡映描写③レポートの作成ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 7 回	短期記憶①暗室での実験実習ー次回までに分散分析の意味を調べる (1 時間) ー
第 8 回	短期記憶②データの分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 9 回	短期記憶③レポートの書き方ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 10 回	短期記憶④レポートの作成ー次回までに皮膚感覚の役割について調べる (1 時間) ー
第 11 回	触二点閾①実験実習ー次回までに対応のある t 検定の意味を調べる (1 時間) ー
第 12 回	触二点閾②データ分析ー次回までに図表を作成する (1 時間) ー
第 13 回	触二点閾③レポートの作成ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 14 回	精神性発汗の測定・知覚順応体験ー次回までにレポートを完成させる (1 時間以上) ー
第 15 回	講義：総括ー次回までに指定した論文を読解する (1 時間) ー
第 16 回	最終レポート受領

※進行状況によって実験内容が変更することもある

到達目標

3. 実験レポートの作成を通し、実験結果を科学的事実として報告するための論文の書き方を理解することができる。
4. 実験レポートの文章作成や心理学において必要とされる図表の作成、文献の引用方法と引用文献リストの作成ができる。

履修上の注意

- ・本講義の受講にあたっては、「心理学実験基礎」を履修し、単位を取得していることを前提とする。
- ・実験ごとにレポートを作成し、提出する。提出期限は実験終了後、目安として 2 週間以内とする（担当教員によって異なる場合もある）。1 種目でもレポートが未提出となると、評価の対象外となり単位が取得できない。
- ・遅刻をすると全体の進行状況に悪影響を及ぼすため、原則として遅刻は許されない。遅刻理由によっては、評価の対象外となり単位が取得できない可能性もあるため、注意すること。
- ・実験の実施やデータ解析に関する方法、実験レポートに記述すべき内容などは、実験種目によって異なることがあるため、各種目の担当教員からの指示に十分な注意を払うこと。
- ・本講義は春期と秋期に分かれる。各学期の人数の調整は指導の関係上、担当教員が均等に振り分ける。

予習・復習

授業時間内での学習および提示された各回の課題に十分に取り組むこと。

評価方法

- ・4 種のレポートの評価を総合する (25%×4 種)

テキスト

- ・特にテキストは指定しないが、「心理学実験基礎」で用いた資料等は手元にあることを前提とする。